五感で感じる沼津まちなか商業の魅力発見BOOK

NUMAZU まちの感触

vol.1

色

沼津の「色」にまつわる個店の深〜い話

NUMAZU まちの感触

＼SNSでも情報発信しています／

#沼津まち感

発行　沼津市商工振興課

NUMAZU
まちの
感触

五感で感じる
まちなか商業

沼津の駅前、いつもの日常、いつものお店。買い物の途中、ふと、あのお店が目に飛び込む。「あれ。このお店、こんなにきれいな壁の色だったっけ…!?」なんとなく『色』が気になりまちをみてみると、あのお店も、そのディスプレイも、この看板も、個性あふれる『色』にあふれているではないですか！ さらに、五感をフル回転してみると、日常に溶け込んでいたまちの色、音、匂い、手触り、その感触は、今まで見えていなかったまちの奥深い魅力に気付くきっかけとなりました。

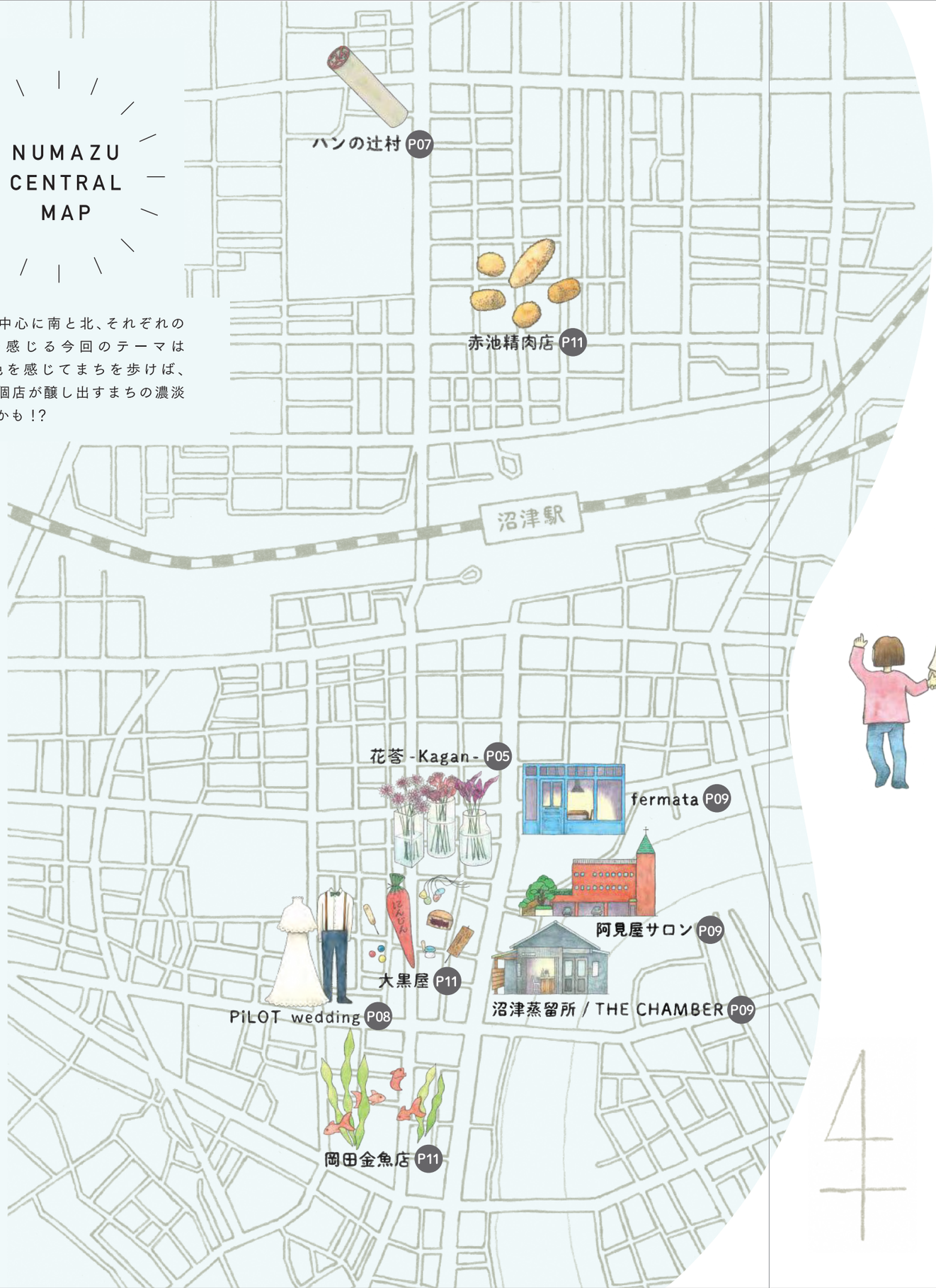
今回はそんな『色』をテーマに、沼津のまちなかの特徴ある個店を取材。『色』に秘められたひとつひとつのお話には、深い深〜い魅力がつまっていました。さあ、いつものまちとお店を、ちょっと違った視点で楽しんでみよう！

CONTENTS

02 沼津市中心市街地MAP
03 特集
カラフルな個店でまちの深みを感じる
05 花苔 -Kagan-
07 ハンの辻村
08 PiLOT wedding
09 ファサードの「色」のメッセージ
阿見屋サロン / 沼津蒸留所・THE CHAMBER / fermata
11 店名に「色」の話
赤池精肉店 / 岡田金魚店 / 大黒屋
13 地域CREATORのまちなかの色
14 編集後記

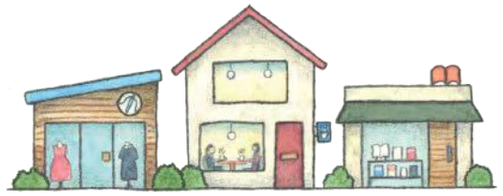
NUMAZU
CENTRAL
MAP

沼津駅を中心に南と北、それぞれのエリアを感じる今回のテーマは『色』。色を感じてまちを歩けば、個性的な個店が醸し出すまちの濃淡に気づくかも！?



花蓙 -Kagan-

その色に理由あり



特集

カラフルな個店で まちの深みを感じる

店主が自分のお店の「色」に込めた思い、メッセージを知っていますか？ 商品、外観、店名…意図して、意図せず、なぜその「色」なのでしょうか？ まちなかで目に付く個性的な「色」を深掘りしていくと、思いもしなかったお店の魅力や隠れた物語がありました。そして、十店十色。ひとつとして同じ色はないのです。それが集まる色とりどりの個店の集合体のまちを、もっと知ってもらいたいと思います。

例えば、まちのお花屋さん。そのお店の花は、他のお花屋さんと同じ色でしょうか？ よくみてみると、お花屋さんごとに色が違う。彩りが全く違う事に気付きます。なぜその花のセレクトで、なぜ今その色の花が並んでいるのでしょうか。いつもは気にしないような切り口から、あのお花屋さんのお話を聞いてみたいと思いました。

花の多彩さ
それは、暮らしに自由を放つ色

花屋「FLEURE DE PIAGET」として沼津あげつち商店街にお店を構えて5年。店主の菅井玲奈さん自身の色をより打ち出し、花のある暮らしの理想を体現するためにリブランディングし、店名を「花菅-Kagan-」とした。菅井さんは、元々、野草や草花が好きで、アレンジメントにもそういった旬の素朴な素材を取り入れ束ねることが多かった。日本の四季や風土、日本人のライフスタイルに合う花を、日々の暮らしにもっと気軽に取り入れてもらいたいと、花器のコーディネートから、花のある暮らしをトータルで提案していく。店内には、自ら目利きし仕入れた国内外の季節の花が並ぶ。その時期にしかない花、季節感を感じられる花のみ仕入れるので、店内はいつ行っても違った色の花で埋め尽くされ、実に麗しい。「枠にはまらずに、もっと自由に花を楽しめるといいな、と思うんです。」同じ花が並ぶことがない花屋の街角の風景が、軽やかに暮らしを変えていく。

人気の秘密は、独自の「花合わせ」

菅井さんによるブーケレッスンも人気。全国に出張レッスンも行っているが、その生徒の多くは花の先生など同業専門家の方々。束ねる花の組み合わせが特徴的で、そんな独自の「花合わせ」の技術を学びたいという。菅井さんのインスタグラムも地域随一のフォロワー数！ ご自身で撮る写真のクオリティも高く、眺めているだけでうっとり。

暮らしに馴染む花器

日常使いしやすい器を提案。あまり流通していない作家の花器も。

お気に入りの花瓶、持ってますか？

花屋をはじめて、家にちゃんとした花瓶を持っていない方が多い事に気付いたそう。地域に花瓶を買えるお店がないという事もあり、花器の取り扱いもはじめる。「お気に入りの花器があると、生活に花を取り入れやすく、その器に合わせて花を買ったり、一輪でも気軽に飾りたくなったりするもの。」豪華なアレンジメントだけでなく、花瓶に合わせた花をアドバイスしてくれる。

日本の花の質は世界有数！
市場には出ない
マニアックな花も仕入れる。

花菅 -Kagan-

静岡県沼津市上土町77
TEL 055-962-0922
営業時間 10:00～19:00　　定休日：水曜
http://www.maisonlena.theshop.jp/

暮らしに長く愛せる一生モノを。

ニューノーマルな生活のひとつに「脱はんこ」の話題が取り上げられている。そんな今だからこそ「はんこを押す楽しさをお伝えしたい。はんこをきれいに押すコツ、練り朱肉の使い方などを気軽に尋ねに来てほしい」と話すのは、創業71年のはんこと朱肉のお店「ハンの辻村」。昔ながらの「練り朱肉」に力を入れているお店だ。ヨモギの葉を乾燥させた「もぐさ」に顔料、油などを混ぜて練り合わせたもので、「黄口」、「赤口」、「濃赤」、「濃赤茶」の4種類がある。辻村さんにとって朱色は「生命力、意思の強さ」をイメージする色なのだとか。深みのある色合いの美しさ、くっきりと鮮明に押印できることと、退色に強いことなど魅力たっぷり。そして、「練り直して再生できる」ことをご存じだろうか。「90代のお客様から30年前に当店で購入された練り朱肉のメンテナンスのご依頼がありました。30年前のものが今でも使えて再生できること、そして、趣味を楽しまれるお客様のバイタリティに感激しました。」と辻村さん。立ち寄るだけでも大歓迎だそう。

これが練り朱肉だ！

練り方の塩梅は、経験によるもの。専用の練り道具も特注で作ったもの。

ハンの辻村

静岡県沼津市高島本町2-27
TEL 055-921-2806 / フリーダイヤル 0120-21-2806
営業時間 9:00～20:00（土・日・祝10:00～19:00）
定休日：年末年始・夏季（お盆）、SNSでお知らせ
http://www.tsujimura.org/

店内にずらりと並ぶヴィンテージドレスは、花嫁に合わせて一着づつ手直しする。

2人らしさを惹き出すのがPiLOT weddingのスタイル！

ウエディングドレスの色といえば「白」。純白ではなく、とろみのあるやわらかで優しい穏やかな色、これがウエディングプロデューサーの秋山さんが抱く白色のイメージ。2020年10月に秋山さんがSNSで紹介したウエディングドレスが大きな反響を呼んだ。それは、医療機器を付けていても支障のないデザインなど、様々な悩みをもつ花嫁1人1人の要望にセミオーダーで応える「着心地の良さを追求したウエディングドレス」。花嫁が安心することがゲストにも一番のおもてなしに繋がると考え、少しでも前向きになれるよう背中を押したいという想いから誕生したもの。ゲストと会話を楽しみ、共に穏やかで楽しい時間を過ごせる「2人らしい自由ウエディング」をPiLOT wedd-ingは大切にしている。

心にピタッとくる運命の一着に出会える

秋山さんが「小さなアトリエ」と呼ぶ店内には、アメリカのヴィンテージドレスやヘッドドレスなどの小物が並ぶ。ヴィンテージドレスは、古いレースなどの可愛らしさや風合い、リラックスして着られるデザインが魅力。しかし、アメリカへ買い付けに行く際のドレスを選ぶ基準を尋ねると、決してデザインを重視しているわけではないのだとか。秋山さん自身が試着をし、「このドレスを着るとHAPPYになれる！」そう確信したドレスだけを買い付ける。

PiLOT wedding

静岡県沼津市大門町18
TEL 090-8073-5579
営業時間：予約制
https://pilot-wedding.com

フェアサードの「色」のメッセージ

沼津のまちなかで出会った、ひときわ目をひく色の外観のお店。その特別な1色が放つ世界、その色に秘められたメッセージとは。

店内から狩野川へ続く
境界線のない景色は開放的

必然という名の偶然が重なった奇跡

最近とみに世間を賑わせている県内初のクラフトジンの蒸留所。かつてここは、ビルの谷間に異次元空間のように存在した平屋の一軒家だった。そこだけ切り抜いたように真っ青な空が仰ぎ見え、目の前には狩野川がたゆたい、さらに向こうには四季折々の色を魅せる香貫山が鎮座する。そんなロケーションに、主張する色は必要なかった。だからこその、黒。それは、この場所だったからあり得たこと。たくさんの偶然と苦労とが重なって生まれたこの場所は、これから、たくさんの人を酔わせる場所となっていく。沼津の香りをのせて。

沼津蒸留所・THE CHAMBER

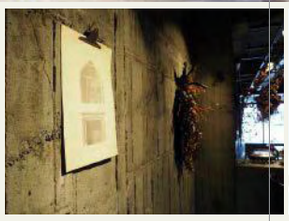
静岡県沼津市上土町8　TEL 055-955-6222
営業時間 7:00～9:00/11:00～14:00/17:00～21:00
定休日:日曜
https://flavour.jp/

ラベルモチーフは
沼津昔ばなしの
「みかん仙人」!

経年で色が変化し
深みがましていく

fermata

静岡県沼津市大手町4-3-52　TEL 055-962-3915
営業時間 11:30～14:30 / 18:00～22:00
定休日:月、第2・4火曜



イメージブックには今に
至るfermataのエッセン
スがぎっしり。ぜひ見せ
てもらって。

どこにもない一店を目指す どこにもない一店

沼津ではちょっと見かけないブルー。ここが何のお店かわからなくても気になるブルー。それが、フェルマータのエクステリア。イタリアンのお店だけれど、店造りはヨーロッパ全土を意識し、いいとこ取り。それを可能にしたのも、この物件あってこそ。昔ながらの杉板型枠のコンクリむき出しの壁、天井など、一目惚れだった。オーナー夫妻は「こうしたい」をイメージブックにまとめ、それをほぼ完全に実現している。件のブルーもしかり。「ドラえもんブルー」と言われたけれど、経年劣化でいい味が出てくるよう塗り分けられている。今も、数年後も、その色を確かめに訪れたい。

幅木に貼られた
東海道大名行列の
札は必見！

狩野川を望む開放的な
ホール。グランドピアノ
やドラムセット、板張り
のダンスフロアも完備。

母から譲り受けた建物と、人の縁

「本当に、いい財産を残してくれたよ」しみじみと語るのは、現オーナーの後藤松郎さん。狩野川沿いの建物のなかでも、ひときわ目を引くサーモンピンクのとんがり屋根。「阿見屋サロン」は、実業家であった後藤さんのお母様が、自分が暮らす家として建てたもの。色に込められた想いは、今は想像で補うしかないが、ただひとつ。サロンに立って狩野川を望むと、昭和の女傑がいかに狩野川を愛し、ここでたくさんの人をもてなしてきたかがわかる。母が遺したのは、場所と人の縁。今は後藤さん夫婦が、さらなる愛情をもってそれをつないでいる。

阿見屋サロン

静岡県沼津市大手町4-2-1　TEL 055-951-0214
※レンタル料　5,000円/1h
※コロナ禍のため、営業を縮小しております。
　詳細はお問い合わせください。

店名に「色（イロ）」の話

沼津のまちなかにある店名に「色」の入ったお店たち、そこにはどんな色にまつわるお話があるのでしょうか。個性豊かなお店の“色とりどり”なお話を集めてみました。

赤池精肉店

人気のメンチカツ（100円）
自家製ソースがかかった鹿肉ソースカツ（150円）は土曜限定

赤いのれん先に黄金色（こがねいろ）の誘惑

沼津駅北口近く、「肉」と書かれた大きな赤いのれんが目印の赤池精肉店です。毎日、87歳のおばあちゃんが揚げる黄金色のメンチカツは、仕事帰りの会社員や塾帰りの学生たちの元気の源です。そして、ショーケースに並ぶ桃色の精肉はどれも新鮮。「赤身多め」、「噛みやすいように薄く」など、お客さんの好みやレシピに合わせて調整もできます。そのため、今晩のおかずについて相談を受けることも。最近は伊豆地方のジビエも充実していて、自家製鹿ローストは絶品。こだわり注文、数が多い場合は事前予約がオススメです。

静岡県沼津市新宿町3-1　TEL 055-921-5293
営業時間 9:30～　定休日：水・日曜、祝日

岡田金魚店

魚は目がいいから
寄って来てくれるよ！

カラフルで優美な水中世界に癒される

開業当時、釣り堀やアイスもなかを販売していた岡田屋が、時代とともに岡田釣具店になり、岡田金魚店と変化し、現在は3代目が個性的なメダカや金魚、熱帯魚などを販売しています。岡田金魚店では、飼育相談はもちろん、水草や水槽など必要なものすべてをセッティングしてくれるので、初心者でも安心。すぐに自宅で飼育できます。ところで、金魚の稚魚はみんな黒色で、成長によって色が変わるって知っていますか？ わずかな一瞬だけ金色に輝く時期があるそうで、お店では「レモンコメット」という金色の金魚も取り扱っています。

静岡県沼津市本町29　TEL 055-962-4010
営業時間 10:00～20:00　定休日：木曜
http://okada-kingyo.sakura.ne.jp

大黒屋

老舗の駄菓子屋でセピア色の沼津と出会う

創業100年を越える老舗の駄菓子店「大黒屋」ですが、創業時は煎り豆・菓子問屋でした。今もいぶし銀な豆菓子や駄菓子を販売し、それを求めてやってくるお客さんも多いとか。夕方になれば、地元の小学生たちが集まり、駄菓子片手に宿題する姿も見られます。週末には名物の今川焼を求めて「ラブライブ！サンシャイン!!」のファンの姿も。店内には、昔の白黒写真や沼津の貴重な資料もたくさんあり、まるでまちの資料館のよう。まちをよく知る店主を慕って、大人だけでなく、小中学生も相談に訪れます。大黒屋はみんなの社交場なのです。

大黒屋で買える
「黒」色の
お菓子の数々！

静岡県沼津市町方町71　TEL 055-962-0619
営業時間 10:00～19:00　定休日：水曜

本誌制作 地域CREATOR のまちなかの色

沼津のタレ料理は何故かくせになる… 桃屋のメンチカツサンド、ボルカノのBCランチ、千楽のカツハヤシ、どの料理も無性に食べたくなる時がある。そして、レンガ敷きの仲見世商店街が私の遊び場だった。幼い記憶から今日まで、沼津のまちは赤茶色に染まっている。

磯村拓也

オフィスが沼津新仲見世商店街の中にあります。ここは、昔からあるレトロさと新しさが混在する面白いエリアでもありますが、レトロの象徴のひとつが、商店街のグリーンとオレンジの床材。空間再編により、間もなくなくなってしまいますが、思い出深い色としていつまでも心に残りそうです。

大木真実

朝と晩、犬の散歩をします。沼津市民文化センターから狩野川河川敷へ、そしてあゆみ橋を渡り、中央公園を横切り、街中へ出て、御成橋を渡って帰路に着きます。毎日繰り返す行動の中で、自然も店も時間や季節で色が変化していく様は、とても楽しいものです。

大嶽りや

沼津生まれ沼津育ちの私。かつてきらめく宝箱だった「おまち」は、陰も陽も酸いも甘いも新も旧もぜーんぶ包み込んで、今やひとつの色にはおさまらない。その路地を曲がったら。その階段を上ったら。その先にワクワクが潜んでいるのが、今の沼津だと思う。

一杉さゆり

ネオン管などを使用した看板や広告「ネオンサイン」を、沼津のまちなかで探すのがマイブーム。夜のまちを彩るそれは、まちなかの色のひとつでは。ネオン管の滑らかなカーブは芸術的で、ピンクやブルーなど鮮やかな色がとてもPOPでかわいいのです。

増田都佳佐

まちなかを流れる狩野川にかかる「御成橋」、欄干の「銀」色。所々サビっぽい赤茶色も見え隠れして、塗装しました！って感じの、決して煌びやかでは無いシルバー具合がお気に入り。冬場は、体が浮いてしまう程の強風が吹き荒れ、銀色の哀愁が堪りません。

増田陽一

沼津の「色」で思い出すのは、大手町にある静岡中央銀行です。一見、普通のレトロビルですが、外壁に特徴的なタイルを使っていて、朝日を浴びるとキラキラと輝きます。七色に光輝く姿は宝石のようで、勝手ながら「沼津のオパール」と呼んでいます。

森岡まこぱ

編集後記

「五感で感じる」というテーマではじまった、まちなか商業の魅力発見BOOK、今号は、「色」にフォーカスしました。それぞれの個店の色に込められたマニアックな意味、深い想いに、いつもとは違う個店の魅力が垣間見ることができたのではないでしょうか。さて、「色」と一言で簡単に言っていますが、色の認識には、光源、物体、視覚の三要素が必要だそうです。色と光に何らかの関係があることは古くから知られており、アリストテレスは「色は光と闇、白と黒の間から生じる」と述べています。表と裏、その間の余白から生まれる様々な想いと物語。それらが集まって出来たまちは、実にカラフルで、その中を歩くだけでもワクワクしてくるような気がします。次はどんな感覚でまちを切り取りとりましょうか。五感を研ぎ澄まして、まちを歩いてみよう。

NUMAZU まちの感触 vol.1
2021年1月28日発行

発行　沼津市商工振興課
〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16-1

制作進行　増田陽一（SBSプロモーション沼津支社）
アートディレクション・デザイン　大木真実（NUMAZU DESIGN CENTER）
撮影　磯村拓也
イラスト　大嶽りや（Lib.）
取材・執筆　一杉さゆり
増田都佳佐
森岡まこぱ